

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 虹の家 琴似	評価実施年月日	平成20年9月1日
評価実施構成員氏名	森田 英子 平 道広 金濱 律子 畠山 玲子 青山 ひろみ 大野 美貴 金谷 昌子 平沢恵子		
記録者氏名	大野 美貴	記録年月日	平成20年9月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念として個人の尊厳を唱え、社会の一員として安心をして暮らして頂けるよう、町内の行事になるべく参加をしたり、外出を心がけている。又入居者が地域住民の皆様と交流をし、認知症への偏見・誤解を解けるよう働きかけている。	○ 町内の行事に参加をした時に、地域住民の方々と一緒に話しかけられたり答えたりする場面は入居者が地域に自然に溶け込んでいると感じた。これからも入居者を支え、地域への働きかけをしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づいて利用者が安心して自立的に、自分らしく維持できることを目指している。具体的には出来ることと出来ないことを見極め、見守ったり一緒に行っている。玄関とホールに理念を掲示して理念を意識して業務に取り組めるよう心がけている。	○ 入居者一人ひとりを尊重する支援のあり方や日常生活の安全の確保、健康管理を行うためにはどうすべきかをスタッフで考え、安心して暮らして頂けるための支援に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議が発足したことで、ご家族や地域の皆様に入居者の日々の活動や今後の取り組みについて説明をする場ができ、地域の皆様に私たちがどのような活動をしているのかを理解して頂けるよう取り組んでいる。	○ 町内会や地域の集まりに参加をしたり、又ホームを見学される場面ではわかりやすい説明を心がけている。「虹の家だより」を発行してグループホームでの活動内容を地域の皆様にお伝えしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	暖かい天候のときは、洗濯物干しや玄関前の花壇作り、草むしり、近くの公園へ散歩など出かけ、隣近所の皆様と気軽に挨拶をしている。隣接する喫茶店へ行き、コーヒータイムをもうけて日常的に隣近所との付き合いが出来るよう努めている。	○ ホームの周囲の草むしりだけにとどまらず、少しずつ周辺の道路の草むしりや落ち葉拾い、ゴミ拾いなどをゴミ袋片手に散歩をするよう取り組んでいる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議が制度化され、第1回目の会議で「グループホームについて」「認知症という病気について」説明をしたところ、意外にもとても関心を持って聞いて頂けた。その後も自治会や老人会などにも認知症について理解を深めていただけるよう努めている。	○ 第2回目の運営推進会議では自治会・老人会・町内会の方々にホームを見学して頂いた。丁度ボランティアのフラダンスが訪れていたため、地域の皆様にも参加して頂き、「また機会があったら参加したい」と感激されていた。少しでもホームの様子を見て頂き理解が深まるよう取り組んでいる。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員や入居者が参加をして少しでも地域に役立つのであれば、いつでも参加をして協力することができる。	○ これから、スタッフや入居者が地域に出来ることはないか、今後の会議の場で話し合いを持ち、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>評価は点検だけに留めず、評価結果を元に改善に向けた計画内容や課題についてスタッフ全員で話し合う機会を持ち取り組んでいる。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	<p>会議の参加者から「地域の行事参加のお誘いや参加の感想」の言葉を頂いたり、ホームからは「ホーム主催の行事への参加のお誘いや参加して頂いたお礼報告」をして意見の交流を行っている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>研修や勉強会にはできるだけ参加をして、学んだことは内部研修を開いてスタッフへ伝えている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	○	<p>退去をする場合は、入居者だけではなく家族にも十分な説明をして、退去先についても相談しながら支援をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	私たち入居者の立場になって行動をし、スタッフ間で情報交換や意見交換をするなかで入居者が何を求めているのかを考えながら支援をしている。入居者の言動を観察し、個々に話を聞くようにしている。	○	本人が不満を言葉に出さなくても、スタッフ間で 本人の立場になってどう思っているかを考えたり、入居者の意見を聞き不満がないよう話し合うことで安心をして生活できるよう取り組んでいる。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、虹の家だよりを発行して行事や日常の報告をしたり、個々の家族に毎月金銭報告や情報交換を行っている。家族の面会時には日頃の様子、体調など定期的に報告をしている。	○	インターネットのホームページにおいても近況報告を行っている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関を入ってすぐの掲示板に苦情箱を設置し、入居者やご家族の方が意見や不満を表現しやすいように工夫をしているが、今まで投稿されたことはない。	○	ご家族が面会に来られた時には、ご家族がスタッフになんでも相談できるような信頼関係作りを勤めているため、口頭で直接言って頂いている。これからもコミュニケーションをとる中で信頼関係を深めてゆける取り組みをしていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に2回程ミーティングを開き職員の意見や要望を聞いている。働く意欲の向上にもつなげられるよう、全員で話し合う機会を設けて反映させている。	○	職員の意見を反映させることで、質の向上にもつなげる取り組みをしている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整が必要なときは柔軟な対応ができるよう職員との話し合いながら勤務の調整をしている。	○	職員は皆協力的であり、公休であっても状況にあわせて人材が確保できる体勢がとれている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者とスタッフは家族的・身内的な馴染みの関係である為、離職のときには入居者に淋しい思いを与えないようそっと触れずにいる。ご家族に対してはその旨は説明し、毎月発行している虹の家だよりには異動について載せており、入居者も読んでいる。	○	職員の異動や新しく入った職員を紹介するときに「教えてあげてください」と入居者へ声を掛けると興味をもって接して頂いている。退職の際は「何月何日に退職する」と伝えてしまうと、新しく入った職員と比べたり、不安を感じてしまうことが起こるため配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加することで、「認知症(若年性認知症も含む)」や「精神障害者への支援」の理解を深めているほか、「介護職がモチベーションを下げずに働き続けるために」というテーマでの研修にも参加をして職員自身の心身の育成にも働きかけている。。グループホーム独自の動きとしても、看取りや看護体制についてどう取り組んでいくかを考えている。	○	行政や社会福祉協議会で行っている研修に出来るだけ参加をしている。(特に新入職員が知識を身につけられるよう勤務の調整をして参加している)研修に参加した後は内部研修会で報告をしたり、研修報告書を常時閲覧できるようにして他の職員にも学んだ内容を共有し、ケアの実践につなげられるよう取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	西区のグループホーム同士で交流を持つために職員も一緒に見学をしたり救急の対応などの勉強会を開催し、サービスの質の向上させていく取り組みを実施している。	○	これからも他グループホームの良いところを取り入れケアサービスに活かす取り組みをしていきたい。管理者会議に今後も出席することで意見交換や情報交換をしてサービスの質を向上できるよう役立てていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は職員の話をよく聞き、職員同士の人間関係を把握できるよう努めている。また、ストレスが軽減できるよう職員の声に耳を傾けるよう努めている。	○	交代で休憩をとる時には、入居者と離れた場所でリラックスをして疲労を軽減したり気分転換が出来るよう配慮をしている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフがなるべく研修に参加をして認知症ケアに関心を寄せたり向上心がもてるよう働きかけている。	○	研修は勤務に支障がおきないように調整してなるべく参加できるよう努めている。これからの支援は個々のスタッフの力量も問われてくるので、利用者と家族に満足をしていただけるよう取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者が必要な支援はグループホームで適しているのかを視点に置き、家族とよく話し合い病歴や本人自身はこれからどのような生活をしていきたいかなど十分情報を整理していく中で入居に向けて検討している。	○	入居が決定した後は本人に一日も早く安心をして暮らして頂けるよう、私達は入居者個人をよく見て、苦しんでいる事、困っている事、求めている事などの状況を把握し、支援につなげ信頼関係を作れるよう取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	可能な限り家族と話し合い、どんな不安をもっているのか？何を求めているのか？よく話を聞いて家族に納得していただけるような説明を実施している。	○	家族の方はホームではどこまで対応をしてくれるのかわからず、不安を持ったり困っている事があるため、よく説明を行い十分話し合っ対応してゆくことを理解して頂く事で安心してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときに本人やご家族が何を求めているのか？今までのような暮らしや生き方をしてきたのか？総合的に情報をとらえた上で、出来る事・出来ない事・必要な支援を見極めグループホームで対応できるものなのかを判断して対応をしている。	○	本人にとって必要な支援は、ホームで出来る限り対応しているが、他のサービス利用が必要でかつ可能な場合は柔軟に対応が出来るよう取り組んでいきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者の今までの暮らしや生き方家族関係などを職員が把握して声を掛けたり会話を引き出すよう心掛けている。また入居者の中でのリーダー的存在の方とのコミュニケーションを手助けすることで入居者同士が仲良くなったり、ホームの雰囲気に早く馴染むことができるよう支援をしている。ご家族の方にもどのような支援をしていくのかを相談したり家族の要望を聞きながら取り組んでいる。	○	なるべく入居する前には本人が見学に来てホームの雰囲気を知って頂けるようにしている。レクなどを通して入居者同士で協力をしあったり、触れ合うことで自然に溶け込んでいくような取り組みをしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	居室の掃除・衣類の整理整頓は本人が出来るところはやって頂きながら職員と会話をしながら一緒に行っている。その中で個々の雰囲気や表情、しぐさ、何気ない言葉から本人の思いや情報を得たり、ともに学びお互い支えあう人間関係を築いている。	○	日常生活を見守りながら、本人ができることへの声掛けを繰り返し行っていき、本人の立場になってよりよい共同生活ができるよう取り組んでいる。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族から気がかりな事や要望などを気軽に言って頂けるよう、こちらから日々の様子や支援の内容を伝え話しやすい雰囲気作りをし、ご本人と一緒に支えている関係作りに取り組んでいる。	○	ご家族が気軽にホームに立ち寄れるような雰囲気作りをしたり、ホームの行事などにはご家族をお誘いして、本人と触れ合い一緒に過ごすことで共に喜び楽しみを感じて頂けるよう支援している。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	家族の面会時には日頃の本人の暮らしぶりやレクリエーション・ボランティアでの楽しまれた様子、他の入居者とのより良い関係を築いている為にどのような支援をしたかなどをお話して家族の方に安心をして頂けるよう努めている。	○	入居者と家族がホームで一緒に過ごされ絆を深めた場面を写真に撮って、その写真を家族の方に差し上げることでホームでの暮らしに安心をして頂けるよう取り組んでいる。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の親族や昔からの友人などが気軽に積極的に訪ねてきて頂けるよう声をかけ、今まで支え合ってきた人達との関係が途切れないよう支援している。	○	本人が嬉しそうだった事などを親族や友人に伝えるなどして、これからも本人の親族や昔からの友人などが会いに来てくれたり電話を掛けて本人と近況についてお話をしてくださる関係が継続できるよう支援に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、会話やレクなどを通して入居者同士仲良く暮らして頂けるよう努めている。また、個々の表情や言動を見ながら入居者同士の仲の善し悪しに配慮して皆で楽しく支えられる関係作りに努めている。	○	新しく入った入居者は孤立しがちなので世話役の人の力を借りてなるべく早くホームに溶け込めるような場面作りに心掛けている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者は何を求めているのか、日々の暮らしの中で出来ること出来ないことの観察、希望や意向を示す言動についてセンター方式を用いて分析をし把握に努めている。又、本人の意思表示があまりない場合には、ご家族からの情報や今まで利用者がどのような生き方をしてきたかを考慮して本人の立場に立って検討をしている。	○	職員全員で入居者ひとり一人の具体的な思いについて話し合いをして本人の思いに近づける努力をしている。話し合った結果をケアプランに組み入れて支援の実践につなげている。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人やご家族からこれまでの生活歴やちょっとした思い出話でも具体的に情報を頂き整理をしている。又今までどのようなサービスを利用し、ホーム入居までにはどのような経過があったのかを把握することで生活歴だけではなく本人の全体像を知る取り組みを実施している。	○	入居者ひとり一人、生活歴や生活環境などの全体像をまとめて、個別にあわせたケアプランにつなげる取り組みをしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとり一人24時間、日々の様子を観察して記録に残している。小さな動作や言葉にも個人の変化として感じ取り、本人を把握して必要な支援に繋がれるよう取り組んでいる。	○	ひとり一人の心身状態に配慮した具体的なケアプラン作成に努め、職員全員がそのケアプランを把握した上で介護の実践できるよう取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネと職員の間で、プランの評価や本人やご家族から出た意見・要望などの意見交換情報交換をするなかで介護計画の原案を作成している。この介護計画原案をケアカンファレンスの中で利用者が自分らしく暮らしてゆける計画なのかを再検討し、出た意見やアイデアを反映できるよう取り組んでいる。	○	センター方式を用いて個々の利用者の把握を行いケアマネと職員全員で介護計画の見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎に見直している。まだ解決できず支援が必要な事案については継続をし、又本人や家族からの新しい要望があったり、身体変化があった場合は本人・ご家族と話し合いながら新しい支援を追加している。	○	介護計画を見直す際は身体機能の出来る事出来ないことだけではなく、安らぐ生活・楽しい生活・生きがいを持つ生活など精神的に安定できる具体的な計画作成ができるよう取り組んでいる。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者それぞれ日々の様子、食事や水分量、排泄や身体状況、本人の言葉・訴えや要望など記録し介護計画の見直しに活かすよう取り組んでいる。	○	日々の生活の様子に変化やケアに必要とする事など個別に記録に記入し見直しに活かすよう、職員間の情報や入居者の気づきなどに印しをつけてわかるよう取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者やその家族の要望に応じて通院や送迎に必要な支援をしている。	○	日々入居者と接する中で変化する状況や重度化していく状況等、家族との話し合いで要望に応じて必要な時に必要なサービスを柔軟に職員が提供するよう取り組んでいる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回、ギター演奏、フラダンス、合唱団に訪問して頂いている。又消防訓練を消防署にお願いし訓練を行ったり、地域での暮らしを続け町内の地域資源と協働し活用できるよう連絡を取り実施している。	○	ギター演奏では皆で歌い、フラダンスは先生と一緒に踊り皆さん生き生きとして楽しまれている。又家族の知り合いの方にも、着物による踊りや三味線を披露して頂き楽しい時間を過ごせました。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者本人の希望で近隣の美容室に行かれたり昔から利用していた理容室の方に訪問して頂きサービスを利用するための支援をしている。	○	美容室も理容室も地域の人に分かってもらい又他入居者も利用される。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	3ヶ月に一度運営推進会議の場において日々の活動状況を発表し、地域包括センターの人達から評価や助言等を頂いている。	○	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加することで質の確保、向上に向けた行動、周辺情報や情報交換を築き協働し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の提携のクリニックによる訪問診療、毎週1回訪問看護に 来られ、バイタル測定や体調に変化はないか入居者に話しかけら れ相談できる関係をつくっている。又体調に変化があたつときには その都度主治医に報告をして指示を頂いている。</p>	○	<p>処方薬に変化があったり、注意をして経過をみる必要が ある場合はその都度職員に伝え、健康管理に気を付けて 支援している。入居者が他の医療機関の受診を希望し た場合や、他の医療機関への受診が必要な場合はご家 族と相談をしながら通院の送迎の支援を行っている。</p>
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>入居者ひとり一人病院で認知症の診断が付き治療をうけており、 適切な指示や助言のもと支援を行っている。</p>	○	<p>定期診療で入居者一人ひとりの健康状態や認知症につ いての指示や助言をもらい職員にも把握できるよう申し 送り取り組んでいる。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>提携しているクリニックからの訪問看護師が毎週看ているため、顔 なじみとなって気軽に相談をしやすい関係が出来ている。スタッフ も日頃の健康管理や医療面について助言や相談が出来ている。</p>	○	<p>訪問診療・訪問看護を行っている医師や看護師とは24 時間連携が密にとれる体制が確保されている。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院先には(ご家族の同意を確認して) 必要な情報は提供している。又なるべく早く退院できるよう家族や 病院側の回復状況等退院支援に努め実施している。</p>	○	<p>入院した場合、本人を元気づけるためにも職員と見舞い に行き家族とも協働しながら本人に必要な支援を行うこと に取り組んでいる。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合早い段階から家族や医師等と話し合い入居者並 びに家族の希望を最大限に尊重するよう対応している。</p>	○	<p>本人やご家族の安心と納得が得られるように、状況の変 化の度に、ご家族・医師・ホーム側と方針や具体的支援 について話し合いを持つことに取り組んでいる。ホームと して「看取りの考え方と指針」のマニュアルを作成してお り、今後の支援に活かしてゆきたい。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>入居者、家族やホーム、医療機関が一丸となって取り組めるよう 家族や医療機関とチームとしての連携に努めている。職員の力量 も鑑み、急変した場合は緊急時に対応して頂けるよう取り組んで いる。</p>	○	<p>本人の気持ちを尊重し、家族の協力を得ながら入居者が 安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退居に当たっては、契約書に基づいて家族と十分話し合い、納得された上で住み替えられている。</p>	○	<p>他のホームに移られた場合、アセスメントやケアプラン、本人の状況、習慣、好みや支援状況を提供し環境や暮らし方の継続性等に配慮して頂けるよう働きかけていくことに取り組んでいる。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>すべての職員が個人情報保護法の理解に努め、入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底、入居者の尊厳と権利を守ることに取り組んでいる。</p>	○	<p>トイレ誘導をするときや失禁を発見したときも言葉を選んで声をかけ、ご本人のプライバシーを損ねないように心掛けている。</p>
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者が食べたいメニューや調理の下ごしらえ等、本人が決める場面作りを実施している。</p>	○	<p>天候の良い日は散歩、草むしりなど入居者が希望しそれに応じて柔軟に職員と一緒に見守りながら生活している。</p>
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人のペースでゆっくり、楽しく過ごして頂けるよう可能な限り本人のペースに合わせた支援を行っている。</p>	○	<p>入居者一人ひとりのその日の過ごし方を尊重し、おしゃべりを楽しんだり、買い物や散歩に出掛けたりと個性のある支援に取り組んでいる。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装等、本人の好みや意向に添えるようさりげなく支援している。</p>	○	<p>入居者本人が美容室に行きたいと希望し、又本人の馴染みの床屋に行き会話することで楽しみにもつながるので、これからも取り組んで行きたい。</p>
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>旬の食材を取り入れ、好き嫌いがある人には、調理を工夫したり、代替したりとその人に合わせた食事が出来るよう実施している。調理の下ごしらえや手拭の準備、下膳は入居者が行なっている。</p>	○	<p>食後は入居者自ら下膳をして「おいしかったよー」「ごちそうさまー」という声が聞かれる。スタッフと入居者が同じテーブルで食事をするのが望ましいが、スペースが狭いこと、食事開始が遅れてしまうことから現段階では一緒に食べる事ができていない。今後は一緒に食事を楽しめる改善策を考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日、午前中にラジオ体操の後はコーヒー、ココア、カフェオレ、牛乳等本人の好みのものを一人ひとり日常的に楽しんで頂けるよう支援している。	○	現在の入居者にお酒やタバコが好きな方はいない。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけオムツの使用を少なく済むように排泄のパターンを把握してトイレ誘導をしている。	○	出来るだけ自立に向けトイレで排泄できるよう、排尿時間をチェックして時間を見計らってトイレ誘導を行なっている。誘導の際は周囲への配慮をしながらさりげなく支援し取り組んでいる。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者がいつでも入浴できるよう一人ひとり個別に合った入浴を楽しめるよう支援している。	○	入浴を嫌がる人には本人の意向を第一に、無理せず気分の良い日に入浴できるよう支援している。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	職員はひとり一人の入居者の睡眠パターンを把握し、夜間のトイレの見守りや夜眠れない入居者にはホットミルクなどの提供をして安心をして眠られるよう支援をしている。	○	眠れない入居者には医師と相談し、ビタミン剤を服用し安心して眠れるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりに合った役割があり、洗濯干し、食器洗い、洗面所の掃除、玄関掃除、新聞取り、ブラインド開け、フキン縫い、又楽しみごととしてオセロ、トランプ、花札、玉入れ等の場面作りを実施している。	○	入居者の出来る力を最大限に活かし、昔作った塩辛、おから、漬物などを作ったり、指南したりと自分らしく暮らせるよう支援し、これからも取り組んでいく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者がお金を持つ大切さは理解し、本人が買いに行きたい場合は付き添い、買い物楽しく出来るよう支援している。	○	全員ではないが自分の希望により小遣いを持ち近所の店に行き本人が支払えるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近くの公園まで職員と入居者で散歩をしている。車椅子使用の人も出来るだけ外に出て気分転換やストレス発散が出来るよう取り組んでいる。	○	隣に喫茶店があるので、入居者同士で気晴らしに出掛けられたり、家族の方と外出したり買い物帰りに昼食を食べてもらえる場面もある。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事で雪祭りやお花見、紅葉など等季節を感じられる場所へ車で出かけている。行事では入居者の家族の方にも声を掛け一緒に出掛けられる機会を作り実施している。	○	外出をした時には普段は行かないレストランでの外食やお弁当を食べて頂き楽しんで頂いた。家族の協力を得て、もっと入居者と一緒に行きたい所に行けるよう取り組んでいきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切な人に連絡を取りたいと思ったときに気軽に職員に言い出しやすい関係作りに心掛けている。申し出があった時には、電話などを掛けられるよう支援をしている。	○	電話の会話が他入居者に聞こえないよう居室で話しが出来るよう配慮している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の家族がいつでも気軽に訪問できる雰囲気を作り居間でくつろぎ居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	入居者も一緒にお話ししたり、自由にコーヒーも入れられたりリラックスして過ごせるようにしている。又地方から来られた人にゆっくり泊まってもらうなど配慮している。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はあってはいけない行為であると職員全員が認識を持って働いている。	○	入居者の人権を守り、どんな事があっても拘束を行わず、入居者が安心出来るケアに取り組んでいる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関の鍵はかけていない。建物の構造上玄関は死角となってしまうため、玄関の入り口にはブザーを取り付け入居者の出入りには察知・把握をしている。	○	入居者が外出しそうな様子を察知した時にはさりげなく声を掛け、気分転換を促したり職員と一緒に行動をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に入居者に目配りし、さりげなく一人ひとりを把握するよう努めている。夜間は巡回のほかトイレや物音がしたときも入居者の様子や行動に気を付けて見守っている。	○	職員は入居者の一日を記録や申し送り等で全員の状況を把握し、24時間入居者の安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁など使用した後は鍵を付けている。その他洗剤等にはカーテンで目隠しするなど危険防止に取り組んでいる。	○	入居者に危険な物にはその都度注意を促し、保管管理が必要な物は厳重に管理している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災などこれらの事故防止に努め、又ヒヤリハットを記録し、発生した場合は事故報告書を作成し事故原因や今後の予防策について検討し、家族へ説明、報告している。	○	日頃からヒヤリハットの報告や危険と思う気づきを収集し、職員全員で事故防止に活かしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時のマニュアルや申し送りなど知識と実践の資料がファイルにある。夜勤時で目を通し実際の場面で活かせる技術を身に付けている。	○	救急対応や必要な応急手当などの研修や講習などに参加し、全職員が対応できるように取り組んでいる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に4～5回火災訓練や避難訓練を定期的に行い職員全員で災害時対策に関する話し合いや支援体制の整備に取り組んでいる。	○	この消防署の協力を得て消火訓練や入居者が避難する場所に誘導したり、消火器の使用方法を発生時に備えて訓練を繰り返すことに取り組んでいる。管理者は今年6月に防火管理資格を取得し、年に2回訓練を行なっている。日頃から全員が消火、避難などの訓練を重ね、いざという時に迅速で的確な行動がとれるよう万全な体制が取れるよう取り組んでいきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	調理の手伝いをして頂けば包丁で指を切ることもあれば外出すれば転倒することもある。生活していれば当然な事で家族へは十分説明し、理解を得られるよう努めている。	○	見守っても注意しても怪我をする可能性もある。普通に生活する中で身体を動かし、抑圧感のない暮らしの中で残存機能を活かすよう支援している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	身体の様況や異常を早期に発見した時はバイタルチェックを行い記録に残し、状況によっては医療受診につなげる。	○	入居者一人ひとり体調の変化など記録に残し、普段の様況は職員が把握しているので少しでも食欲など様子の変化があった場合は早期対応に結びつける行動に取り組んでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者ひとり一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量については職員が理解できるよう「処方薬一覧」としてファイルをしている。服薬後の症状の変化についても確認をして記録に残している。	○	入居者の服薬に変更があった場合は、職員全員に伝えている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	なるべく食物繊維の多い食事を取り入れたり、水分摂取にも心がけ自然排便を促す工夫を個別にしている。	○	入居者一人ひとりの排便チェック表を付けており、一人ひとり食事の工夫や運動など行う等個別に取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者一人ひとり、口腔内の清潔保持が出来るよう、口腔ケアを日常的に行うよう支援している。口腔内に食物が残っていないかを確認したり、入れ歯の消毒を行なっている。	○	食後の歯磨き、うがいなど一人ひとりに促し、出来ないところは職員が介助し就寝前には必ず入れ歯も磨き、異常があれば歯科に訪診して頂いている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	24時間チェック表で、一人ひとりの食事摂取量や飲水量を記録をして職員全員が把握できるようになっている。	○	配食サービスを利用しており、栄養士がカロリーや栄養バランスに偏りがないよう支援している。又食べられないものがある人には代替をつけている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	入居者には排泄後や食事の前には石鹸で手洗いをして頂いている。又、感染対策マニュアルを作成して職員全員で予防について学習をし感染症の予防対策が徹底できるよう取り組んでいる。	○	食事前は石鹸で必ず手を洗い、手洗後はペーパータオルを使用している。入居者は年に1回インフルエンザ予防接種を受けている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布きん、まな板を漂白殺菌し、食器も熱湯で消毒している。毎日配達される食材は新鮮なうちに使い切るようにしている。	○	余った食材を使いきれよう臨機応変にメニューを変更して対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入居者と一緒に玄関前にはプランターに花の種を植えたり鉢植えが置かれ安心して出入りが出来るよう工夫している。	○	町内の方々からもお花を頂いたり、ホームの周りの草取りなどして季節感を味わいながら気分転換にベンチに座り庭先でお茶を飲んだり出来る工夫をしている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関にはお花が置かれ、廊下にはオルガン、居間の窓際にも観葉植物の鉢が置かれ落ち着いて過ごせる空間をつくっている。台所は居間から続いている配置なので一緒に食事の支度をしたり、支度の様子を見たり嗅いだり五感で感じる事ができ、家庭的で生活に密接した雰囲気である。	○	1階、2階の共用空間に鉢など置いてあるので入居者が花の手入れや水やりなどに季節感を味わい居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。1階、2階のトイレにウォシュレットを設置し爽快感を得られるようにしている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	道路が見える所にベンチがあり1人で座っても心地よく過ごせる場所で又2階にもテレビと大きなテーブルがありそこでも入居者同士談笑される場所もある。	○	外の見えるベンチに座りながら近所のお花に目をやったり、隣の喫茶店に入るお客さんの顔も見れたり1人で過ごせる場所ともなっている。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者それぞれが必要に応じて使い慣れた生活用品を持って来られ、安心して過ごせるような工夫をしている。	○	入居者の居室には写真が飾ってあったり行事の中で頂いた物など、大切に飾ってあったり本人も落ち着いて過ごせるような工夫に取り組んでいる。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ、居室など十分換気に努め、よどみがなく温度調整は、入居者の状況に応じてこまめに行っている。	○	トイレは外気温に配慮しなから窓を開け換気をしている。居間はこまめに窓を開け空気入れ換えを行っているが、入居者に「暑いですか?」「寒いですか?」と確認しながら温度調整をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段や廊下、トイレ等入居者の状態に合わせて手すりなど設置し、安全確保と共に自立への配慮をしている。	○	本人の活動性を維持するため、歩行器等を個人の状態に合わせて取り入れている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ひとり一人の混乱しやすい場面・失敗をしやすい場面は何かを職員全員で話し合い、自立できるための支援をしたり、混乱や失敗をした時の速やかな対応をすることで本人の不安を取り除き、力を取り戻せる工夫をしている。</p>	<p>○</p>	<p>入居者ひとり一人の「お花に水やりたい」「外に洗濯物を干しに行きたい」という思いがスムーズに実行できるよう、次に何をしたらよいか声を掛けたり職員と一緒にこなうことで支援をしている。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関の外に入居者と一緒に植えたお花が沢山あり、じょうろや長いホースでゆっくり水やりをしながら入居者と花の成長を話したり、ベンチで日向ぼっこが出来るよう工夫している。</p>	<p>○</p>	<p>居間の窓際にも鉢花があるので水やりや枯れた花など取ったりと日常生活の中で活動出来るように活かしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者がより自分らしく暮らすことが出来るよう健康管理や安全確保を行なうだけでなく、一人ひとりの力を発揮できる手助けをしている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>パズルやトランプ、花札、オセロなどを一緒に行ったり、外に出て花の水やりや散歩等を行なってゆったりと過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>一人ひとり好きな落ち着いた思い思いの場所で個性に応じた過ごし方をしている。又、自ら自然にアクションを起こす力、意欲がでるような場面づくりを行なっている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者の尊厳を守り、一人ひとりの暮らし方の希望やその人らしいあり方を職員が把握し、一方的ではない利用者本位の支援に取り組んでいる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>年間行事は勿論、希望があれば買い物又天候が良い日は日常的に公園等出掛けるようにしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>月2回の訪問診療と毎週の訪問看護を受けており、365日24時間医療連携がとれる体制である。また年1回健康診断を行っており医療機関とは信頼関係も出来ているので入居者は安心して過ごされている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>本人や家族の要望に応じて暮らし続けていくために必要な支援を家族と話し合い、日々変化する状況等、臨機応変に柔軟な支援を提供している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>家族とは面会時に積極的に日々の様子や体調なども伝え、気軽に相談が出来て家族の理解や協力を得ながらお互いに信頼関係が出来ている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>フラダンスやギター演奏のボランティアが毎月1回訪問して下さり、入居者と一緒に歌ったり踊ったりしている。又近所の方も見学にいらしたり、今年は地域の方々が帯踊りや三味線を披露してくださった。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くいない</p> <p>運営推進会議が発足したお陰で地域の住民や町内会役員の皆様に知って頂ける機会・場所ができた。会議を通して地域で開かれた行事に参加でき、町内会の方々に良くして頂いた。地域の仲間入りが出来たと思う。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の2/3くらいが</p> <p>③職員の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>全職員は優しく思いやりがあり、入居者を大切にして楽しく働いていると自負している。グループホームの雰囲気は職員の間が人間性がにじみ出ていると思う。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p> <p>③利用者の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>出来るだけ入居者が家庭に近い環境で過ごせるよう、又居心地の良い暮らしの場を提供できるよう心掛けている。入居者も場面ごとに職員に感謝の気持ちを表している。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の2/3くらいが</p> <p>③家族等の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>入居者の家族とは常に状況など説明したり、希望や要望など話し合い、出来るだけ思いに添える支援を行なっている。入居者と家族が喜びと安心のある生活を送っていただけるよう努め、満足して頂いていると思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

運営理念を確認しながら、知識や技術の向上に努めるとともに、利用者の意思及び人格を尊重する大切さを意識して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。また、グループホームでの生活を入居者だけでなく職員も楽しめるような雰囲気作りに心掛け、小回りのきく柔軟な組織を目指し、その時の状況に応じ臨機応変に対応の取れる職員で構成されるグループホームにしたいと日々努力をしています。